

フードテック官民協議会

Council for Public-Private Partnership in Food Technology

第1回（提案・報告会）

令和2年10月2日

フードテック官民協議会発起会

フードテック官民協議会 第1回提案・報告会

次第

フードテック官民協議会発起会

- 1 議長の互選
- 2 規約案について
 - ・ 規約案について説明
 - ・ 意見、質疑応答
 - ・ 規約の承認、協議会の立ち上げの宣言

フードテック官民協議会 第1回提案・報告会

- 1 あいさつ
- 2 協議会について
- 3 WT・CCの提案
- 4 その他

フードテック官民協議会規約（案） その1

第1章 協議会

（名称）

第1条 この協議会は、フードテック官民協議会（以下「協議会」という。）という。

（目的）

第2条 食・農林水産業の発展と食料安全保障の強化に資する、資源循環型の食料供給システムの構築や高い食のQOLを実現する新興技術について、国内の技術基盤の確保に向けて、協調領域の課題解決の促進や新市場の開拓を後押しする官民連携の取組を推進する。

2 個人と組織の力を活用し、建設的で挑戦的な発想で議論し、双方向に価値を与え合うことで、会員相互の発展・成長を促進する。

（協議会が行う事業）

第3条 協議会は、前条の目的を達成するため次の各号に掲げる事業を実施する。

- （1）フードテックの振興に資する官民連携の推進に関する事業
- （2）フードテックの振興に資する普及啓発に関する事業
- （3）フードテックの振興に資する調査研究・教育に関する事業
- （4）その他協議会が定める事業

第2章 会員

（会員）

第4条 協議会は、協議会の目的に賛同する個人（以下「会員」という。）で構成する。

（入会）

第5条 協議会の会員として入会しようとする者は、事務局の指定する方法で申し込むことにより入会することができる。

（退会）

第6条 会員は、協議会に届け出ることにより、任意に退会することができる。

2 退会の届出は、以下の事項を届け出るものとする。

- （1）退会しようとする者の氏名
- （2）退会の理由
- （3）届出の年月日

（会費）

第7条 会員の会費は無料とする。

（会員の権利及び義務）

第8条 会員は、事業に参加する権利を有し、会員の議決権はそれぞれ1とする。

第9条 会員は次に定める義務を負う。

- （1）本協議会の目的を達成するため、本協議会が進める事業へ参加・協力する。
- （2）本規約その他本協議会の運営に関わる諸規程等を遵守する。

（除名）

第10条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、事務局の判断により当該会員を除名することができる。

- （1）本会則その他の規則に違反したとき。
- （2）協議会の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- （3）その他の除名すべき正当な事由があるとき。

第3章 総会

（構成）

第11条 総会は、全ての会員をもって構成する。

（議長）

第12条 総会に、議長を置く。

2 議長は、総会の都度、会員の互選により選出する。

（召集）

第13条 総会は、事務局が招集する。

（議事及び決議）

第14条 議事は、規約の変更その他協議会の活動に関する重要な事項とする。

第15条 総会の決議は、出席した会員の議決権の過半数をもって行う。

（議事概要）

第16条 議事概要は、事務局が作成し公表する。

フードテック官民協議会規約（案） その2

第4章 提案・報告会

（構成）

第17条 提案・報告会は、全ての会員をもって構成する。

（開催）

第18条 提案・報告会は、毎年度3回程度開催する。

（召集）

第19条 提案・報告会は、事務局が招集する。

（議事）

第20条 提案・報告会の議事は、第5章に定める作業部会や、第6章に定めるコミュニティサークルの提案・活動報告その他協議会の活動に関する事項とする。

（議事概要）

第21条 議事概要は、事務局が作成し公表する。

第5章 作業部会

（作業部会の設置）

第22条 特定のテーマに関する議論を行う場として、作業部会（以下「W T」という。）を、会員の発意により協議会に設置する。

（作業部会の設置に係る手続き及び活動報告）

第23条 W Tを設置しようとする者（以下「W T 責任者」という。）は、W Tで扱う内容について、W T 提案様式に必要事項を記載し、会員に対し、作業部会に参加する者（以下「W T メンバー」という。）の公募を行い、W T メンバーを決定する。

2 W T 責任者は、W Tにおける情報の取り扱いその他W Tの運営に必要な事項を定める。

3 W T 責任者は、原則年2回程度、W Tの活動状況について提案・報告会で報告を行うものとする。

第6章 コミュニティサークル

（コミュニティサークルの設置）

第24条 フードテックの振興に資する普及啓発、会員相互の連携促進を図る活動を行うコミュニティサークル（以下「C C」という。）を、会員の発意により協議会に設置する。

（C Cの設置に係る手続き及び活動報告）

第25条 第23条の規定に準じて行う。

第7章 事務局

（事務局）

第26条 協議会の事務局は、会員の協力を得て、農林水産省大臣官房政策課が行う。

第8章 雑則

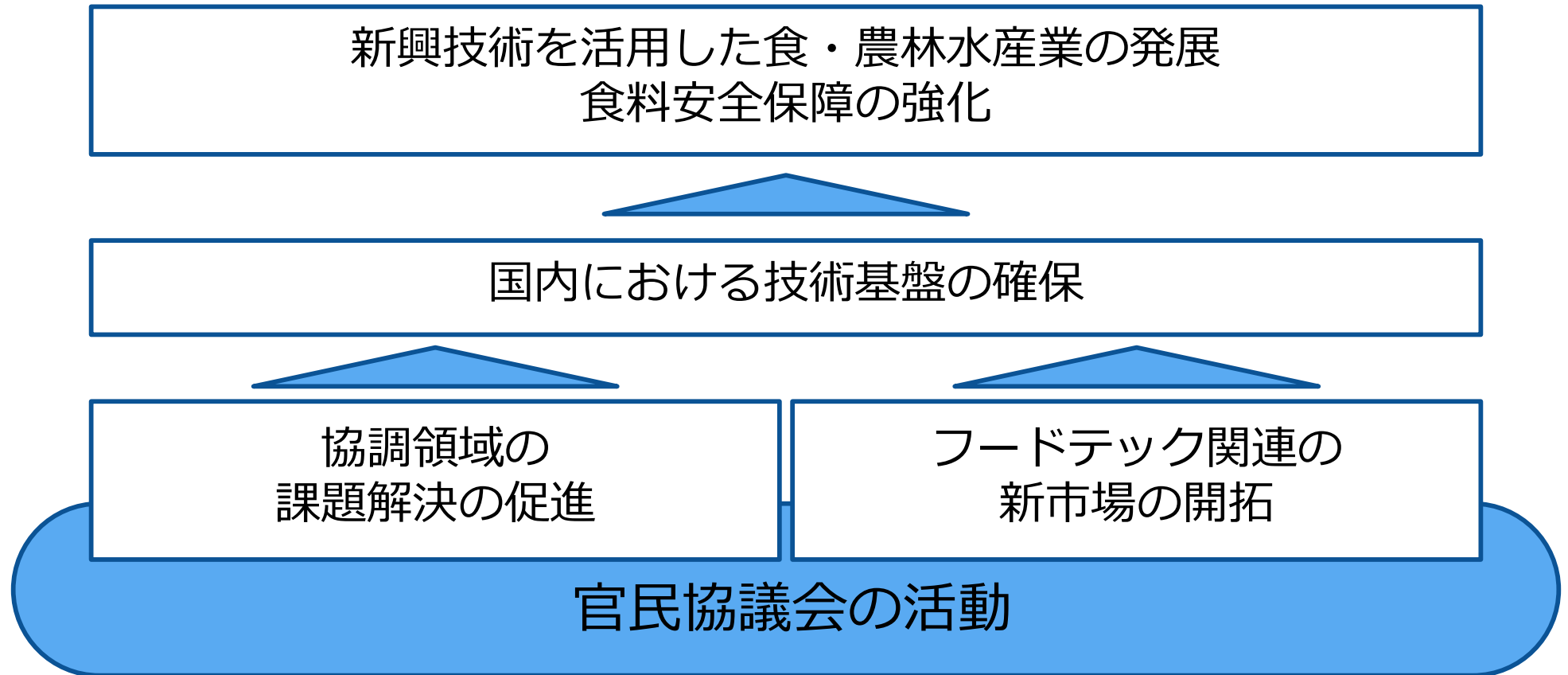
（協議会の活動における情報の取扱い）

第27条 会員の利益を守る観点から、交流・連携の場において秘密情報を扱う場合には、場に参加する会員の了解を得て、適切な情報管理を行うこととする。

以 上

フードテック官民協議会設置の趣旨

食・農林水産業の発展と食料安全保障の強化に資する、資源循環型の食料供給システムの構築や高い食のQOLを実現する新興技術について、国内の技術基盤の確保に向けて、協調領域の課題解決の促進や新市場の開拓を後押しする官民連携の取組を推進するため、フードテック官民協議会を立ち上げる。



官民協議会の活動

協調領域の課題解決の促進や新市場の開拓を後押しする官民連携の取組を推進するため、官民協議会には、

- ①規約の変更等、協議会の運営に係る重要事項を決定する総会
- ②情報共有や交流・マッチングの機会を提供する提案・報告会
- ③協調領域の課題解決に向けて議論・提言を行う作業部会
- ④機運を盛り上げていくため継続的に取り組むコミュニティサークル

を設置する。

総 会

- ・ 規約の変更その他協議会の運営に係る重要事項の決議

※議事進行は、会員の互選で選ばれた議長が行う。

提案・報告会

- ・ WT・CC立ち上げの提案、活動報告、成果の共有

※議事進行は、協議会事務局が行う。

作業部会
(WT: Working Team)

- ・ 協調領域の課題解決に向けて、
明確なアウトプット、活動期間を定め、専門的な議論を行う場

コミュニティ活動
(CC: Community Circle)

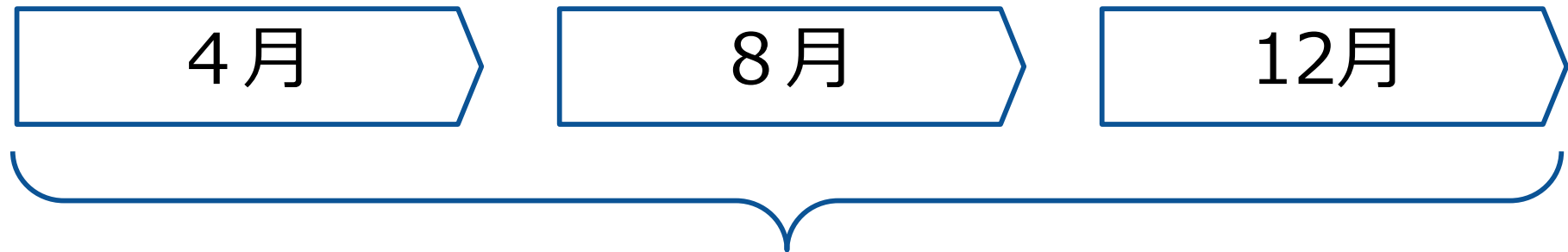
- ・ 協議会参加者のリソースを活用し、フードテックに関する
機運を盛り上げていく継続的な活動を行う場

提案・報告会

協議会の提案・報告会は、原則オンラインでの開催とし、年3回程度（4、8、12月）を目安に開催し、

- ①基調講演やパネル等を開催し、ビジョン等の協議会の価値観を共有
- ②作業部会やコミュニティ活動の活動状況を報告し、全体で情報共有
- ③会員からの新たな活動の提案を受け付ける場の提供

などを行う。



- ビジョン等協議会の価値観の共有
- 作業部会やコミュニティ活動の活動状況の報告の場
- 新たな活動の提案の場

※原則、オンラインでの開催とする

作業部会のテーマ

- ・**作業部会**は、協調領域での**課題特定・対応方針の策定**や、当該分野に関する**調査や報告書の作成**、政策提案など、**専門的な議論を行う場**として設置。
- ・**提案者**が、テーマ設定やスケジュール等を検討し、メンバーを募って活動を行う「**この指とまれ**」方式で設置。

<民間企業等から提案のあったテーマ（立ち上げ時）>

2050年の食卓の姿

長期(2050年)的な視点で、消費者の生活スタイルや食に対するニーズの変化、フードテックに係る技術開発のトレンドを予測した上で、フードテック振興のあり方等について検討を行う。

スマート育種産業化

ゲノム編集等のスマート育種技術は、育種効率及び機能性を飛躍的に向上する技術である。今後のビジネス市場を形成していくための事業化プロセス、技術的な課題を特定し、その解決に向けた検討を行う。

ヘルス・フードテック

食の機能を最大化し、高いQOLを目指す食と、これを取り巻く環境・文化を組み合わせた未来の食産業創出に向け、検討体制を構築し、実現のための技術課題を特定、その解決策について検討を行う。

宇宙食

将来的に大きな需要が見込まれる宇宙食について、国際的に競争力の高い有人宇宙滞在技術の実現と日本の食産業の競争力強化を目的として、宇宙食に係るフードテックの研究開発目標やロードマップ、必要となる共創基盤や、支援策について検討を行う。

細胞農業

研究開発が進む細胞農業(培養肉)の産業化に向け、①細胞培養肉の食品として製造時の安全性、販売時の表示の在り方、②消費者とのコミュニケーション、③既存産業との共存の仕組みと役割分担の明確化等について検討を行う。

昆虫ビジネス

動物飼料用、食料用の昆虫の市場を形成していくための生産方法や、研究、安全性の評価、用途開発等の課題を特定し、解決に向けた検討、実証を行う。

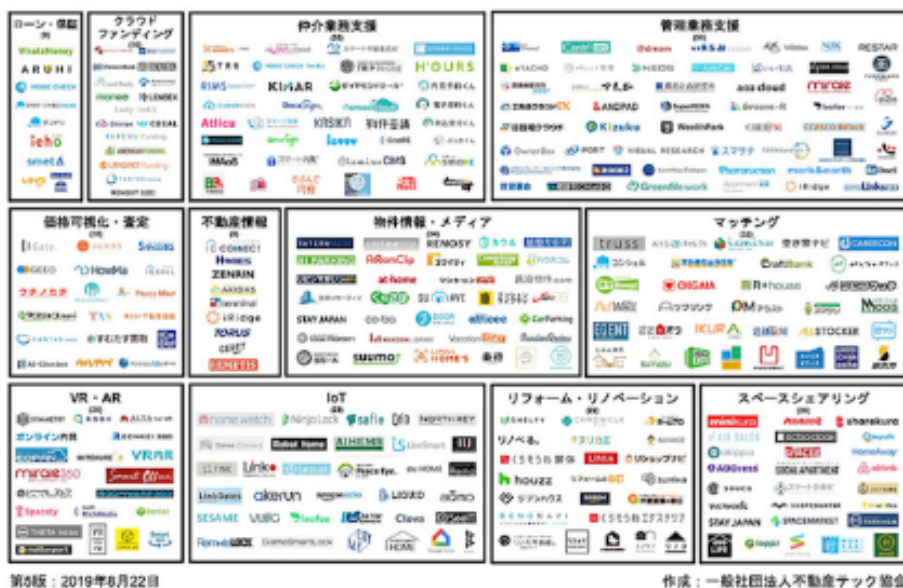
コミュニティ活動（CC: Community Circle）

コミュニティは、協議会参加者のリソースを活用し、フードテックに関する機運を盛り上げていく、試食会、海外への情報発信(マンレポ・HP)など、継続的な活動を行う単位として設置。WT同様、「この指とまれ」方式で活動。

企画1：フードテックのカオスマップづくり

フードテックに関するサービスを提供する協議会メンバーをカテゴライズし、カオスマップを作りませんか？

(参考) 不動産テックカオスマップ（一般社団法人不動産テック協会）



企画2：フードテックのカタログ

協議会メンバーのサービス・取組を紹介するカタログを作りませんか？



企画へ御協力いただける方、掲載を希望される企業、募集します！

WT・CCの立ち上げまでの流れ

① WT/CC事務局は提案書を作成

※ 立ち上げる者は協議会事務局へ御連絡ください。提案書様式を送付します。

② WT/CC提案書を協議会事務局へ提出（形式チェック）

③ WT/CC事務局は提案・報告会、メールにより、提案・メンバーを公募（必要に応じ、参加希望者からWT事務局へ問い合わせ）

④ 参加希望者は、WT/CC事務局へ応募

⑤ WT/CC事務局はメンバーを決定（協議会事務局へ報告）

⑥ 活動開始

※各WT/CC終了後、簡易な議事概要・資料を協議会に提出してください。

(参考) WT・CC提案様式 (イメージ)

WT立ち上げに係る提案様式 (新興技術・新興ガバナンス WT)

申請日：令和2年〇月〇日

項 目	記入欄	備考
WTの名称	新興技術・新興ガバナンス WT	
趣旨・目的	食に関する新興技術を起点とする、新産業の成長ストーリーが描かれた、将来の技術動向の把握、それに対応する規制の在り方についての検討体制を整備することを目的に、「新興技術・新興ガバナンス WT」を立ち上げる。	
想定メンバー	国立研究法人（NARO戦略開発センター、NEDO/TSC、JST/CRDS等）、 大学有識者（技術予測、ガバナンス等）、 関係省庁（農水省、経産省、消費者庁、文科省、厚労省、食安委等）	この他、必要に応じ 民間シンクタンク、 VC等をお招きしヒア リング実施。
当面のアウトプット	将来の技術動向の把握、それに対応する規制の在り方についての検討体制を構築。 （当面は、各機関が有する食に関連する技術情報を共有するとともに、大学有識者等から海外（英・米）の行政機関の取組等を紹介いただき、食分野における各機関の検討体制の在り方を検討。）	
今後のスケジュール（概ね半年）	2020年9月：WTの提案、募集 2020年10月：第1回 WTの目指すもの、当面の進め方（農水省） 2020年11月：第2回 プレゼン①（有識者） 2020年12月：第3回 プレゼン②（国研） 2020年1月：官民協議会 全体会（活動報告） 2020年2月：第4回 プレゼン③（VC・シンクタンク） 2020年3～4月：中間とりまとめ（体制の在り方⇒深化）	・当面は各機関の取組共有。どういった枠組みが持続的で、機能するか。 ・開催頻度は要調整（1回/1～2ヶ月）
情報の取り扱い	参加者と協議の上、決定。 （非公開、公開、チャタムハウスルール）	
開催方法	原則、オンラインでの開催。	
責任者・事務局	農林水産省政策課〇〇〇	
窓口担当者	〇〇、〇〇	
窓口連絡先（メールアドレス）		
窓口連絡先（電話番号）		

CC立ち上げに係る提案様式 (カタログCC)

申請日：令和2年〇月〇日

項 目	記入欄	備考
CCの名称	フードテックカタログ	
趣旨・目的	官民協議会に参加するフードテック企業の取組について広く国内外に発信しフードテック全体の機運を高めるため、「フードテックカタログ（仮称）」を作成する。	可能なら、会員の協力を得て英語版を作成。
想定メンバー	食品メーカー、スタートアップなど	
活動	・フードテックカタログの企画、作成、更新管理 ・成果物は、官民協議会事務局HPへ掲載。	
責任者・事務局	農林水産省大臣官房政策課	
窓口担当者	〇〇、〇〇	
窓口連絡先（メールアドレス）		
窓口連絡先（電話番号）		

会議情報の取り扱いについて

- ・ 会議情報の透明性の確保、情報共有によるオープンイノベーションを促進する観点から、協議会における情報の取扱いは、チャタムハウスルールを基本とします。

チャタムハウスルール：参加者は会議中に得た情報を外部で自由に引用・公開することができますが、その発言者を特定できる情報を公開することは禁止します。

- ・ 基本的には、①会議は非公開、②全体会の議事概要は公表、③WTでの取扱いは各WTで決定することとします。
- ・ WTの活動・成果物を全て公表する必要はありませんが、協議会として対外的な情報発信が行えるよう、活動報告、成果物の概要を公表するようにお願いします。

	会議の公開	議事概要	資料
全体会	非公開	HPで公表 ※ 協議会事務局が作成	公表
W T	非公開	各WTで決定 〔①公表 ②非公表〕 ※ WT事務局が作成	各WTで決定 〔①公表 ②非公表〕

このほか、CC・イベント等については積極的な对外発信をお願いします。

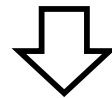
名簿の取り扱いについて

- ・ 会員の所属組織（企業・団体等）名は、協議会事務局HP等で公表します。（非公表も可）
- ・ 協議会内では、所属組織（企業・団体等）名、個人名、部署・役職名をオープンとします。
- ・ 会員内のマッチングの御希望があれば、事務局に連絡してください（相手方の了承を取った上で、お取次ぎします。）。

	協議会外	協議会内
所属組織 （企業・団体等）名	オープン（HP等で公表） orクローズ の選択制	オープン
個人名、 部署・役職名	クローズ	オープン

今後の流れ

1. 各WT・CCのプレゼン（本日）



2. 事務局からWTの案内（近日中にメール）



3. 各WTへの参加、問い合わせは2のメールでお知らせする各WT・CC事務局連絡先まで

2050年 食卓の姿WTについて①

趣旨・目的	2050年の我が国における「生活スタイルの変化」に着目するとともに、食料供給の課題や技術動向に係る議論及び既存データ等の整理を通じて、官民協議会のビジョンの基礎的検討を行う。
想定メンバー	民間企業、スタートアップ、NPO、大学有識者、国立研究法人（NARO、JST等）、関係省庁（農水省、経産省、消費者庁、文科省、厚労省、食安委等）、地方自治体
当面のアウトプット	ビジョン検討報告書

2050年 食卓の姿WTについて②

スケジュール	2020年10月 WT参画者募集 第1回 WTの目指すもの、当面の進め方 11月 第2回 2050年のライフスタイルの変化に係る話題 提供、意見交換 12月 第3回 2050年の食料供給の課題 2021年2月 第4回 食料需要予測 3月 第5回 アウトプット素案議論 3～4月 第6回アウトプット（ビジョン検討報告書）
WT事務局	農林水産省大臣官房政策課、三菱総研

新興技術ガバナンスWTについて①

趣旨・目的	フードテック分野について、官が民を規制する「技術統治」ではなく、官と民が双方向でルールを形成する「新興技術ガバナンス」の発想の下、産学官で新たなルールづくりの枠組み構築に向けた検討を行う。
想定メンバー	国立研究法人（NARO戦略開発センター、NEDO/TSC、JST/CRDS等）、大学有識者（公共政策、社会受容形成、ガバナンス等）、民間シンクタンク、関係省庁
当面のアウトプット	フードテック分野における新興技術ガバナンスに係る体制構築に向けたネットワークづくり

新興技術ガバナンスWTについて②

スケジュール	2020年10月 WT参画者募集、WT立ち上げ、当面の進め方とプレゼン（農水省・有識者） 11月～ ～2021年3月 ・ホライゾンスキャンニング、テクノロジーアセスメントなど、ガバナンスの国内外の取組を共有。 ・新興技術のガバナンス体制について議論
WT事務局	農林水産省大臣官房政策課

スマート育種産業化WTについて①

趣旨・目的	CRISPR-Cas9を始めとしたゲノム編集等のスマート育種技術は、その育種効率性等から産業化が期待されている。同技術の産業化を目的として、課題の整理や協調領域の設定等について検討する。
想定メンバー	スタートアップ・ベンチャー、民間企業（種苗会社、食品製造、商社等）、国立研究開発法人（農研機構、理化学研究所等）大学、関係省庁（農林水産省、厚生労働省、消費者庁）、弁護士、弁理士＋ゲスト（必要に応じて随時）
当面のアウトプット	①課題整理:ゲノム編集に係る全般的な課題を整理する ②①で収集した意見を精査し、協調領域の選択と検討を実施 ・食品表示における届出から受理までのプロセスを整理 ・CRISPR-Cas9のような要素技術の横断的なコストダウンの可能性（ロイヤリティー交渉力の強化等） ・その他事業化において抱える課題の中で協調領域に該当するものを見出し取りまとめ

スマート育種産業化WTについて②

スケジュール	2020年10月上旬 WT参画者募集 10月下旬 WGの目指すもの、当面の進め方を発表 11～1月 ①課題整理、②協調領域の選択と検討、 ③事業化に向けた議論 2021年2～4月 年度取りまとめ及び次年度活動について議論
WT事務局	クニエ

SPACE FOOD WTについて①

趣旨・目的	フードテックの飛躍的な高度化及び統合による国際的に競争力の高い有人宇宙滞在技術の実現と日本の食産業の競争力強化を目的として、フードテックの研究開発目標やロードマップ、必要となる共創基盤や政府支援策について検討する。
想定メンバー	国立研究開発法人（JAXA、NARO等） 企業（植物工場、培養肉、微細藻類、自動化、QOL等） 大学等有識者（植物工場、培養肉、資源再生、QOL等） 関係省庁（農水省、内閣府、文科省）
当面のアウトプット	(1) 宇宙/地球において目指すべきゴール/マイルストーン設定 (2) (1)を実現するための研究開発目標とロードマップ (3) (2)の実現に必要な共創基盤 (4) (2)(3)の実現に必要な政府支援策

SPACE FOOD WTについて②

スケジュール	2020年10月 WTの募集 10月-11月 第1回 WT説明・論点整理① 12月 第2回 論点整理② 2021年2月 第3回 論点整理③ 3月 中間とりまとめ
WT事務局	一般社団法人SPACE FOODSPHERE
その他	参加する企業及び有識者は、国際的に競合優位性の高い技術又は知見を保有する企業・研究者、かつ宇宙利用を視野に入れた具体的な研究開発又はビジネス構想のある企業・研究者を想定。参加に際して、ヒアリング等を実施予定。

昆虫ビジネス研究開発WTについて①

趣旨・目的	動物飼料用、さらには食料用の次世代資源として、昆虫の生産方法や製品性能及び安全性の評価、また機能性探索と用途開発等、昆虫を利用した飼料生産・食料生産等に関する国内外の情報収集や検証を行うことで、持続可能な昆虫ビジネスの実現に向けての課題とその解決策を検討するとともにルール作りに資する情報発信、提案等を行う。
想定メンバー	大学及び大学研究者、有識者、国立研究法人（NARO、JST等）、飼料メーカー、食品メーカー、エンジニアリング、商社、シンクタンク、スタートアップ、自治体、関係省庁（農水省、経産省、消費者庁、文科省、厚労省、食安委等）など
当面のアウトプット	将来の昆虫利用技術動向と課題の把握、その解決策と対応する規制の在り方についての検討体制を構築。 ・昆虫飼料の安全規格、昆虫食の品質基準に資する情報発信、提案（優先課題として作業） ※各機関が有する昆虫飼料研究に関連する技術情報を共有 大学有識者や企業等から海外の企業や行政機関の取組等紹介 現状課題と対策案を整理して、実行に向けて推進体制を検討

昆虫ビジネス研究開発WTについて②

スケジュール	2020年10月 WT設立 第1回 WTの目指すもの、当面の進め方（事務局） 11月 第2回 プレゼン①（国内外海外昆虫飼料技術動向と課題／安全性、機能性(求めるもの)、製造コスト等） 12月 第3回 プレゼン②（国内外昆虫食技術動向と課題品質基準(安全性)、表示） 2021年〇月 昆虫〇〇市民公開シンポジウム（オンライン） 2月 第4回 プレゼン③（課題対策等ロードマップ／飼料、食料向け安全性を優先、機能性も併記、※ヘルスケアも目標作成） 3～4月 中間とりまとめ（推進体制の在り方⇒深化） 〇月 昆虫ビジネス研究会（仮称／准学会）を立ち上げ
WT事務局	昆虫ビジネス研究開発プラットフォーム（略称：昆虫BPF） （本WTに参加するにあたり、昆虫BPFへの入会が必要。 参加に際して、審査等を実施予定。）

細胞農業WTについて①

趣旨・目的	研究開発が進む細胞農業（培養肉）の産業化に向け、①細胞培養肉の食品として製造時の安全性、販売時の表示の在り方、②消費者とのコミュニケーション、③既存産業との共存の仕組みと役割分担の明確化等について検討を行う。
想定メンバー	民間企業、スタートアップ、NPO、大学有識者、国立研究法人（NARO、JST等）、関係省庁（農水省、経産省、消費者庁、文科省、厚労省、食安委等）、地方自治体
当面のアウトプット	政策提言（2020年秋～冬）

細胞農業WTについて②

スケジュール	2020年10月 参画企業、関連業界企業、他国規制当局等のヒアリング 11-12月 参画者間の提言内容に関する意見交換
WT事務局	多摩大学 ルール形成戦略研究所
その他	本WTに参加するにあたり、細胞農業研究会への入会が必要。 参加に際して、ヒアリング等を実施予定。

ヘルス・フードテックWTについて①

趣旨・目的	食の健康維持機能は、世界的な高齢化が進行していく中で重要であり、高いQOLを実現するためには、本来食が持つ機能性を最大化する必要がある。入口としての食と出口としてのヘルスケアの新興技術が協調した新産業の創出を実現するための検討等を行う。
想定メンバー	企業（食品、ヘルスケア、保険、コンサルティング、老人保健施設運営等）、地方自治体（健康福祉課、健康保険課等）、国立研究法人（農研機構、NEDO、JST等）、大学（食品開発、バイタルデバイス開発等）、関係省庁（農水省、経産省、消費者庁、文科省、厚労省、食安委等）
当面のアウトプット	食の機能を最大化したQOLの高い食と、取り巻く環境・文化を組み合わせた未来の食を定義する。未来の食産業創出のための検討体制を構築し、実現のための技術課題を特定、解決策を見出す。（当面は、企業および大学が有する食に関連する技術情報を共有するとともに、地方自治体、省庁、国研等から食及び健康管理に関する現場の課題・取り組みを紹介いただき、各機関の検討体制の在り方を検討。）

ヘルス・フードテックWTについて②

スケジュール	2020年10月 第1回 WTの目指すもの、当面の進め方（代表者） 11月 第2回 技術紹介（企業、大学） 12月 第3回 食の課題・取組紹介（地方自治体、省庁、国研） 2021年1月 官民協議会 全体会（活動報告） 2～3月 中間とりまとめ（体制の在り方⇒具体的な座組）
WT事務局	リバネス

細胞農業（セルアグ）CC提案



Cellular Agriculture
Institute of the Commons

特定非営利活動法人 日本細胞農業協会

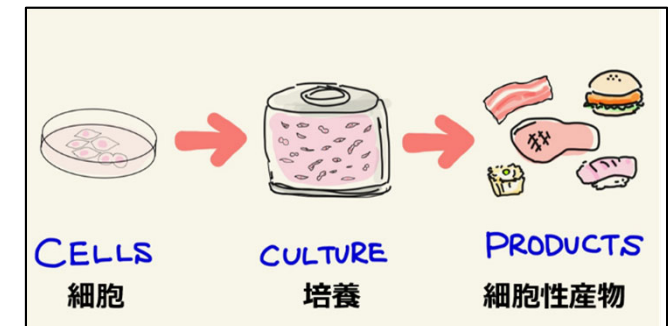
細胞培養技術を用いて農産物・水産物を生産する**細胞農業**（Cellular Agriculture）に関するコミュニティ活動の企画・運営をおこなうメンバーを募集します。

趣旨・目的

一般消費者や生産者にとって、細胞培養は不明な点が多い技術である。細胞培養を体験する場やコミュニケーションの場を設けることで人々の理解を促し、細胞農業生産物が適切に社会受容されるための民意の形成を目指す。

活動内容案

- ①細胞農業・培養肉に関する大規模アンケート調査（年1回）
- ②細胞農業アイデアソン
- ③細胞培養実験教室
- ④細胞農業勉強会
- ⑤次世代フードテック対談イベント
- ⑥CellAg Lab（インキュベーション施設 兼 コミュニティスペース）
- ⑦農場現場見学＆対談イベント



想定メンバー

食品メーカー、スタートアップ、細胞農業分野に興味のある企業
学生、研究者、第一次産業従事者など

お問い合わせ：info@cellagri.org
担当：五十嵐、杉崎

細胞農業（セルアグ）CC提案



Cellular Agriculture
Institute of the Commons

特定非営利活動法人 日本細胞農業協会

細胞培養技術を用いて農産物・水産物を生産する**細胞農業**（Cellular Agriculture）に関するコミュニティ活動の企画・運営をおこなうメンバーを募集します。

① 大規模アンケート調査

食に関する世の中の課題を伝えるとともに、アンケートを実施する
1年or半年に1回実施

② 細胞農業アイディアソン

細胞農業・培養肉に関するアイデアコンテストを行う。
絵、動画、小説etc.

③ 細胞培養実験教室

細胞培養実験教室を実施する。
細胞培養キットの作成および頒布を行い、リモートイベントを実施する。

④ 次世代フードテック対談イベント

次世代フードテックに取り組む方々と連携して市民向けの対談イベントを実施する

⑤ Cell Ag Lab

細胞農業に特化したインキュベーション施設 兼 コミュニティスペースを立ち上げる。

⑥ 農場現場見学＆対談イベント

畜産農家の方々との実地見学と対談イベントを行う。

Plant Based Lifestyle Lab.のご紹介と

Plant Based Food普及促進WT設立のご提案



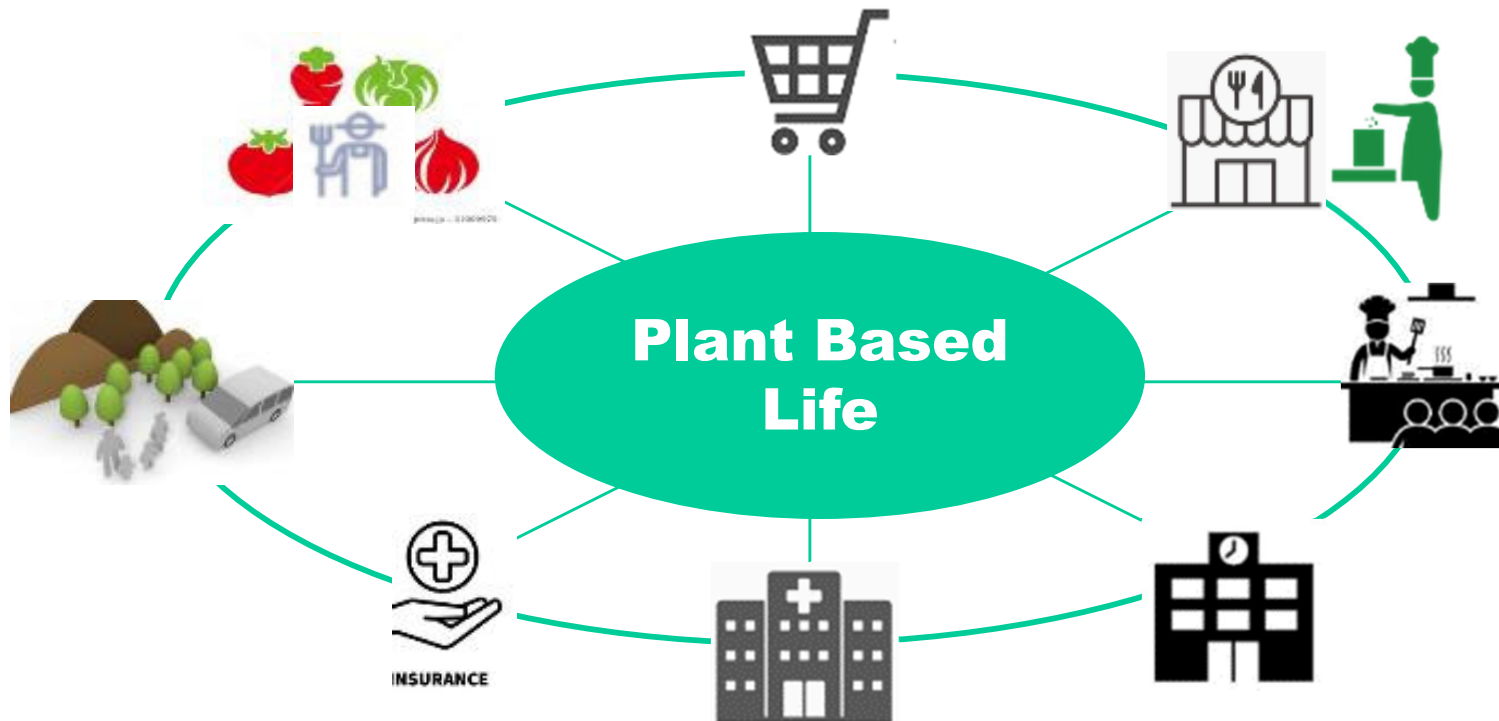
2020年10月2日

Plant Based Lifestyle Lab. (仮)

※協会名称について検討中

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

Plant Based Value Chain



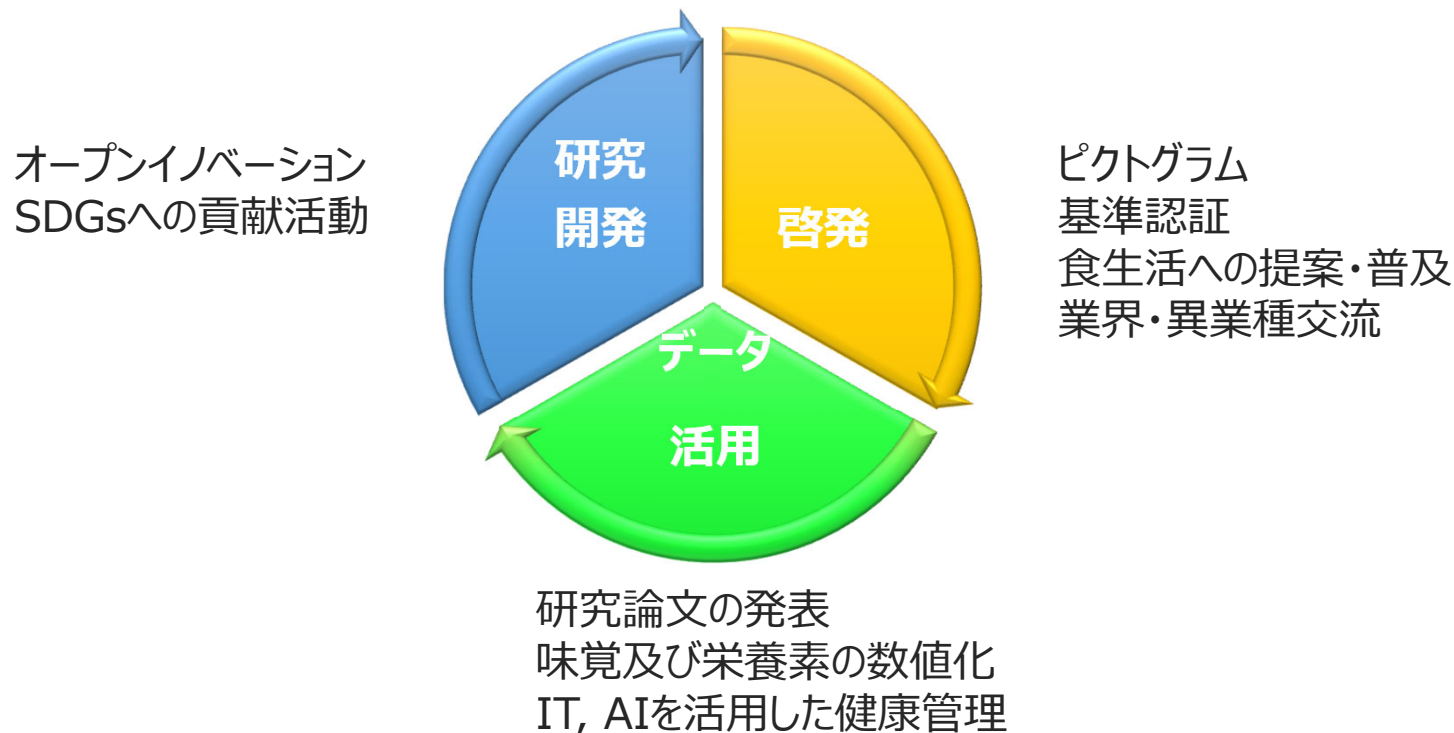
「地球と人の健康」のために私たちができることを今からやろう

日本における課題とP-LAB.活動の柱

■ 課題

- ① Plant basedのメリットや認知度の低さ
- ② Plant basedの多様な選択肢の無さ
- ③ Plant basedに関する科学的調査や研究情報の収集困難
- ④ Plant basedを活かした低炭素社会&ライフスタイルの構築

■ 活動の3つの柱



世界に誇る和食文化



日本発フードテック



Japan. Cool Japan.

発足メンバー（予定）

伊藤忠商事（株）

**（株）NTT ドコモ
日本電信電話（株）**

**オイシックス・ラ・大地（株）
クックパッド（株）
（株）ぐるなび**

小売、外食、料理、スポーツ、美容、ヘルスケア、
観光、教育、保険、環境、都市開発…



不二製油グループ本社（株）

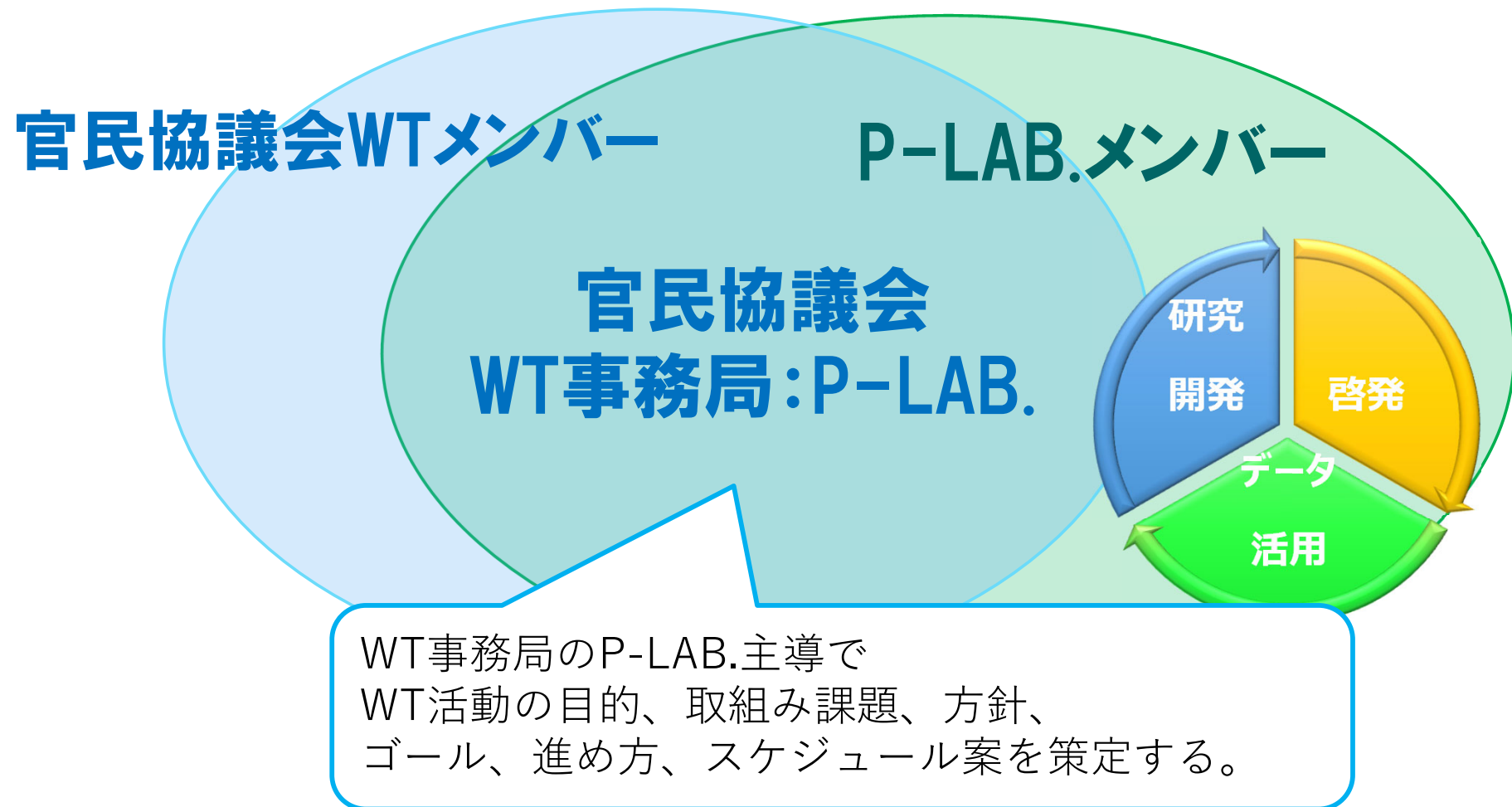
**カゴメ（株）
亀田製菓（株）
カルビー（株）
敷島製パン（株）**

**（株）ABC Cooking Studio
（株）力の源ホールディングス
モスフードサービス（株）**

（株）パソナグループ



フードテック官民協議会PBF普及促進WT（仮）との関係



■ フードテック官民協議会

- 食・農林水産業の発展と食料安全保障の強化に資する、
- ・ 資源循環型の食料供給システムの構築に関するテーマ
 - ・ 高い食のQOLを実現する新興技術に関するテーマ



COMMITTED TO
IMPROVING THE STATE
OF THE WORLD

グローバル・テクノロジー・ガバナンス・サミットに向けて

世界経済フォーラム 第四次産業革命日本センター

農林水産省フェロー 樋口 道弘

World Economic Forum

Centre for the Fourth Industrial Revolution Japan

世界経済フォーラム第四次産業革命日本センター

創設者：

WORLD
ECONOMIC
FORUM

AP i
Initiative
Asia Pacific Initiative

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

目的：第四次産業革命の恩恵を最大化するため、政策のオープンイノベーションを促進し、ガバナンスギャップを解消し、政策の互換性を確保する

パートナー企業：

- ・ アイシン精機
- ・ 日本電気
- ・ サントリーホールディングス
- ・ セールスフォースドットコム
- ・ SOMPOホールディングス
- ・ 武田薬品工業
- ・ デンソー
- ・ トヨタ自動車
- ・ 日立製作所
- ・ マッキンゼー・アンド・カンパニー
- ・ 三菱ケミカルホールディングス
- ・ 森ビル
- ・ 堀場製作所
- ・ エーザイ
- ・ 日本電信電話 (NTT)

プロジェクト参画企業：

- ・ 三菱UFリサーチ・コンサルティング
- ・ デロイト トーマツ コンサルティング
- ・ ベーカー & マッケンジー
- ・ ビザ・ワールドワイド・ジャパン



世界経済フォーラム第四次産業革命日本センター 日本センターのプロジェクト一覧

ヘルスケア・データ政策	Pilot	データ政策	世界中の高齢化社会で深刻化している認知症問題に対応するため、 医療及びライフスタイル・データ をフル活用しうる規制枠組みを政府と共同で策定
スマートシティのための新たな社会契約	Pilot	IoT、ロボティクス、スマートシティ	スマートシティ運営システムの透明性と互換性を高め、 都市がテクノロジーに関して市民目線でよりよい政策判断を行えるよう 行程表と共通の政策枠組を提供
持続可能な地方交通のあり方	Pilot	モビリティ	交通空白地域 とは何かを定義し、地方のモビリティシステムの円滑なダウンサイジングを可能にするための「 公共交通サステナビリティ・インデックス 」を作成
アジャイル・ガバナンス	Co-Design	Agile Governance	第四次産業革命におけるガバナンスギャップ解消のため、規制システムを横断的かつ機動的に刷新する必要があることを認識し、政府と共同で新たなガバナンス・法執行の枠組みを設計
Data Free Flow with Trust (DFFT)	Pilot	通商貿易	2019年G20サミットで合意された「Data Free Flow with Trust」、データガバナンス大阪トラックのコンセンサス形成を支援
フードテック	Idea	地球環境	持続可能な食料の安定供給に資する次世代タンパク質や宇宙食料等のガバナンスの在り方を発信し、技術開発と社会実装の加速に貢献

グローバル・テクノロジー・ガバナンス・サミット (GTGS) 日本開催

第四次産業革命とテクノロジー・ガバナンスをテーマに、ダボス会議級会合として創設予定の「**Global Technology Governance Summit (GTGS)**」第1回会合が、**2021年4月、日本で開催予定**

■ 基本情報

- 日程：2021年4月6日（火）～7日（水）
- 開催地：日本（メイン会場は**経団連会館**）
- 招待者：業界、政府・自治体、イノベーター、NPO・アカデミア・メディア等市民社会のリーダー

■ 特筆事項

- ・ 世界経済フォーラムと共に、日本は議長国として**アジェンダ設計に参画**。日本が描く第四次産業革命のイノベーションを実装した社会像を**世界へ発信**
- ・ 日本初となる世界経済フォーラムの**レベル1会合**
※同等ランクの会議：Annual Meeting（ダボス会議）、Annual Meeting of New Champions（サマーダボス）

■ 取り上げるアジェンダ



第四次産業革命による
ガバナンスギャップが顕著にみられる分野



2021年4月時点で無視できない重大性を持つと思われる課題



世界が耳を傾けるべき
主張・想い・理念



メイン会場：経団連会館
(東京都千代田区大手町1-3-2)

グローバル・テクノロジー・ガバナンス・サミット概要

GTGSは、次の4点を成果として目指す。

- ① **技術ガバナンスの最も差し迫った課題**に関するセッションでの議論
- ② 主要な意思決定者が集まるワーキング・セッションでの、特定技術に関する**政策枠組みやガバナンス・プロトコルへの共同アクション促進**
- ③ グローバルに実証・成功済の**政策アプローチの拡大**
- ④ 新たな技術の出現を予測するための**研究開発フロンティア**の探求

設立経緯

- 世界経済フォーラムは、新技術が人類のためになるかたちで開発され社会実装される未来を実現すべく、**第四次産業革命センター(C4IR)グローバル・ネットワーク**を立ち上げた。過去二年間で、米国、日本、中国、インドのセンターを通じて、30以上の政府パートナー、150以上の企業その他の主要機関と共に、革新的な政策枠組みやガバナンス・プロトコルを策定し、実施してきた。
- グローバル・テクノロジー・ガバナンス・サミット（GTGS）は、これらの主要なステークホルダーが一堂に会し、新たなテクノロジーの責任あるデザイン及び実装を官民連携を通じて実現する方策を議論する、**世界最大のマルチステークホルダー会合**となることを目指す。

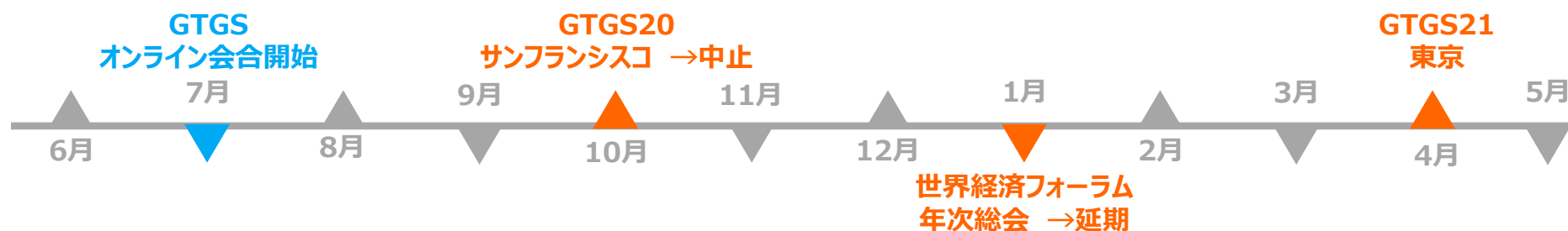
ステークホルダー・参加者

- 第四次産業革命技術を開発・展開する最も影響力のある**産業界のリーダー**
- 新たなテクノロジーの管理に関して最も先進的な**世界、国、自治体のリーダー**
- 気鋭のベンチャー企業を立ち上げ、新技術の限界を押し広げる**イノベーター**
- 技術が人間社会全体に寄与するものであるよう働きかける先駆者としてのNGO、倫理・人権・労働団体を代表する**市民社会のリーダー**

世界経済フォーラム第四次産業革命日本センター

“Road to GTGS” プロジェクト

東京で開催されるGTGS21まで、第四次産業革命に関連する様々なテーマを取り上げたオンライン会合を月例で開催して機運を醸成していく



Road to Tokyo 現状のテーマ

日本
関連

- ◆ **CROSS BORDER DATA FLOWS/DATA FREE FLOW WITH TRUST**
- ◆ **DATA FOR COMMON GOODS INITIATIVE**
- ◆ **G20 SMART CITIES ALLIANCE**
- ◆ **REOPENING THE BORDERS**

その他

- ◆ MEDICINE FROM THE SKY
- ◆ HARNESSING CYBERSECURITY
- ◆ BLOCKCHAIN FOR SUPPLY CHAINS
- ◆ INTERNET OF BODIES
- ◆ SPECIAL ADDRESS from António Guterres
- ◆ GOVERNING DIGITAL CURRENCIES
- ◆ OPERATIONALIZING TRUSTED AI
- ◆ EMERGING TECHNOLOGY AND TRADE
- ◆ INCLUSIVE DESIGN

アジェンダ例 : CROSS BORDER DATA FLOWS/DFFT

Title : Unlocking Data's Global Potential

Date : 28 July, 9:00-10:00 CST / 29 July, 16:00-17:00 JST

Speakers:

- Catherine Mulligan, Fujitsu Services
- Keita Nishiyama, DADC
- Nada Al Saeed, Bahrain Economic Development Board
- Liam Benham, IBM
- Indre Deksnyste, CUJO AI



フードテック・プロジェクト概要

Goal

世界的な人口増加や経済成長、気候変動等を背景に、今後食料セクターは、環境負荷を抑えながら同時に食料増産や消費者ニーズの多様化等に対応する必要。このため、第四次産業革命により発展した食に関する最先端技術（フードテック）を活用すべき。

本プロジェクトでは、フードテックについて各国のストックテイキングを行い、世界的に社会実装を進めるためのガバナンスの在り方等を明らかにする。次世代タンパク質、宇宙食料その他の新興技術を検討対象とする。

Timeline

2020年9月-12月: 専門家による議論

2021年1月-3月: GTGSに向けた議論のまとめ

2021年4月: GTGSにおける発信

Impact

① 次世代タンパク質：

代替肉、培養肉、昆虫食その他の次世代タンパク質技術について、社会受容性の違いや変化にも留意しつつ、官民が連携したガバナンスの在り方を発信し、社会実装の促進に貢献する。

② 宇宙食料：

完全閉鎖空間での食料生産技術、3Dプリンターでの食料転送技術など宇宙食料関連技術について、技術開発の方向性やガバナンスの在り方を発信し、国際連携による技術革新の加速に貢献する。

③ その他：

その他の新興技術についても、議論の進展に応じ、活用に向けた情報発信等を行う。

Partners

農林水産省、フードテック官民協議会



CONTACT:
Michihiro.Higuchi@weforum.org

令和3年度予算概算要求 農林水産省フードテック関連予算

事業名	概要	FS調査	研究開発 (基礎～応用)	実証	事業化 (スケール)	市場形成
 1 スタートアップ総合支援事業	スタートアップが行う、 実行可能性調査から事業化段階までを総合的に支援 するとともに、若手研究者等が新たなビジネスのシーズを創出する 創発的研究 を支援 【10億円】	★	★	★	★	
 2 「知」の集積と活用の中によるイノベーション創出推進事業	『「知」の集積と活用の中」から生み出された 研究成果の海外展開 を支援 【42.9億円の内数】 異分野の アイデア・技術 等を農林水産分野に導入し、 革新的な技術・商品・サービス を生み出す研究を支援 【同上】	★				
3 ムーンショット型農林水産研究開発事業	ムーンショット目標5 「2050年までに、未利用の生物機能等のフル活用により、地球規模でムリ・ムダのない持続的な食料供給産業を創出」の 実現に向けた研究開発 を支援 【1億円】（令和元年度補正予算50億円）		★			
 4 生産基盤強化に向けた新品種等開発強化プロジェクト	多様な需要に対応した品種開発 等による高付加価値化について、 農研機構が中核 となって、 公設試、大学等と連携 して強力に推進 【25億円】		★	★		
5 基準認証関連総合ポータルサイト構築業務	JASに関するデータベース・アプリケーションを実装した、認証機関・事業者等が効率的に活用可能な「 基準認証関連総合ポータルサイト 」を構築 【0.3億円】				★	★
 6 グローバル産地づくり事業のうち、JAS等の国際標準化による輸出環境整備	国際標準化・JASの制定に向け、 標準化戦略の検討、技術的データの収集、海外との折衝 等を行うほか、 国際標準化に係る専門人材の育成 等を実施 【35.5億円の内数】				★	★
 7 農林水産研究推進事業	食による健康実現に向けた研究開発を実施（ 令和型医食同源 ） 【45億円の内数】 国内外の最新の研究開発動向、主要な支援施策、現在・将来の市場規模等、 海外・異分野の動向を調査・分析 （海外・異分野動向調査） 【同上】 高機能性食品等の国際標準化も見据え、新たな研究成果の戦略的な社会実装を推進するため、 普及啓発や相談対応 を実施（ 知財マネジメント強化 ） 【同上】 先端技術に係る 双方向コミュニケーション活動 等を実施（ アウトリーチ活動強化 ） 【同上】	★	★			
 8 次世代技術を取り入れた新たな食料産業創造事業	フードテックに関する国際的な技術開発やビジネスの動向の調査を行い、我が国の強みを分析し、ビジネスとしての フードテックの可能性を検証 【3億円の内数】 完全資源循環型食料供給システムの構築及び閉鎖空間における生活の質を飛躍的に高める食の探索などの 基礎調査・実証 【同上】	★				
		★		★		

※「海外・異分野動向調査」は、特定の技術の実行可能性を調査するものではないが、その前提となる幅広い情報を整理するものであるため、FS調査に類するものとして整理